

3. 児童生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題

藤井寺市教育委員会では、昨年度実施された平成30年度全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、今回の調査結果を分析いたしました。本調査によって見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題の概要については、以下のとおりです。

(1) 学習について

児童・生徒の好ましい傾向

- 特に中学校において、課題に対して自ら考え、取り組んだり、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること（生徒質問紙調査より）
- 小学校において、問題の解き方や自分の考え方がわかるように、ノートに書いたりまとめたりすること（算数調査、児童質問紙調査より）
- まとまりのある英語を聞いて、内容を理解すること（英語調査より）
- 中学校において、英語への関心が高いこと（生徒質問紙調査より）

課 題

- 言語おける基礎的な知識について理解すること（国語調査より）
- 内容や意図を捉え、適切に自分の考えを分かりやすく、正しい表現で書くこと（国語・数学・英語調査より）
- 目的に応じて自分で考えながら文章や資料を読むこと、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること（児童生徒質問紙調査より）

学習については、「自ら考え自分から課題に取り組んでいる」「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできている」と答える児童生徒の割合が、特に中学校においてここ数年増加傾向にあります。これは、各校において新学習指導要領に則った「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の成果であると考えられます。さらに今回の教科別の調査結果と併せて考えると、今後の授業改善の課題も見えてきました。

まず、小学校の算数は、今回の調査では府や全国よりも高い平均正答率で、さらに記述式も問題についても無回答率は府や全国よりも低い結果でした。質問紙調査でも「問題の解き方や自分の考え方がわかるように、ノートに書いたりまとめたりする」と回答した児童の割合が高く、普段の授業の中での取組の成果が表れたと考えられます。

一方、中学校の国語や数学における平均正答率は、府や全国に比べて特に低い結果でした。従来から課題である記述式の問題については、ここ数年改善傾向にありましたが、今回は無回答率も高い結果でした。生徒質問紙からは授業改善の成果が見られましたが、日々の授業の中で自分の考えを伝えたり書いたりするアウトプットの活動を効果的に取り入れるなど、書く力を確実に定着させるために、これまでの取組の検証が必要です。

今回、初めて実施された中学校の英語の調査は、英語への関心が高いこと、聞いた英語の内容を一定理解できていることが明らかになりました。ALTの活用も含めた授業展開の工夫の成果が伺えます。しかし、書くことについては他の教科と同じ課題も明らかとなりました。

(2) 生活について

児童・生徒の好ましい傾向 (質問紙調査より)

- 人の役に立つ人間になりたいと感じていること
- 先生が自分の事を認めてくれていると感じていること
- 特に小学校において、読書に親しむ習慣が定着しつつあること
- 家庭で学習する時間が、増加傾向にあること

課 題 (質問紙調査より)

- 地域の行事との関わりを持つこと
- 家庭で自ら計画を立てて学習する習慣が定着すること

生活については、昨年度と同様「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童・生徒の割合が高く、ここ数年この高い割合を維持しています。また、「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答する児童・生徒の割合も高く、児童・生徒が一定の安心感をもって、意欲的に学校生活を過ごしていることがわかります。いじめに関する質問についても「どんな理由があってもいけない」と回答した児童・生徒の割合は高い水準を維持しており、各校の教育活動の取組の成果と考えられます。

読書量を見ると、依然、府や全国と比べると少ないですが、ここ数年は特に小学校において、増加の傾向があります。各校の学校図書館の充実に向けた取組の成果であると考えられます。今後は中学校との連携も含めた取組の拡充を図っていきます。

家庭学習について、小中学校ともに学習時間はここ数年増加傾向にあります。しかし、依然主体的に取り組んでいる割合は低いです。今後も引き続き、学校と家庭とが連携しながら、自分に自信が持てたり、達成感を味わえたりするよう取り組み方の工夫が必要です。

.....

各学校では、子どもたちが意欲的に学習し、学びの達成感を感じ、自己肯定感が育まれる授業が何よりも大切です。そのため、多様な学習形態や指導法を組織的に研究し、日々の授業で実践する必要があります。「本やインターネット等で、じっくり調べる活動」「話し合いで、考えを広げ深める活動」「自分の考えをまとめる活動」「自分の考えや説明したいことをわかりやすく表現する活動」等の言語活動の実践をさらに進めていくとともに、子どもたちが受け身で授業にのぞむのではなく、主体的・対話的で深い学びとなる実践を積み重ね、家庭学習にもつながるような授業改善が引き続き必要です。

教育委員会では、今回の調査結果における成果と課題をいかしながら、「学力向上推進支援事業」を通して、各学校の特色に応じた授業研究、児童・生徒が生き生きと活躍する授業改善を進めるとともに、取組におけるPDCAサイクルに基づいて学校と共に検証してまいります。また、授業作りの研修会の開催、個に応じた習熟度別指導の工夫等が推進されるよう支援してまいります。「豊かな学び」の環境作りのため、学校図書館やICTを活用した学習の充実に、より一層取り組んでまいります。